

## 平成 18 年度配分 研究成果の概要

研究名	海外を舞台にしたアメリカ小説の中の多文化 ーホーソン、ヘミングウェイ、ペローの小説を中心にー				
配分を受けた 特別研究費	文化政策学部長特別研究費				680 千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	国際文化	教授	鈴木元子	
共同 研究 者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: 共著書  『ソール・ペロー研究』の第5章「アフリカは どこに存するのか:『雨の王ヘンダソン』試論」		発行日	平成 19 年 6 月 1 日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

- (1) アメリカ人作家のアーネスト・ヘミングウェイやソール・ベローは 20 世紀初期から中期にかけてアフリカを舞台にした小説を書き、そこにアメリカ人の目から見た「アフリカ文化」の諸相を描き出しているが、当時のアメリカ人(作家・読者)にとって「なぜアフリカが魅力だったのか」について探求する。
- (2) 具体的な作品、つまりベローの『雨の王ヘンダソン』(*Henderson the Rain King*, 1956)と、ヘミングウェイの「キリマンジャロの雪」(“The Snows of Kilimanjaro”, 1936)とを比較する。そして、ベローの『雨の王ヘンダソン』の舞台がどうしてアフリカでなければならなかったのか、およびアフリカを作品の中でどのように用いたかについて結論を導く。
- (3) それ以前の 19 世紀作家であるナサニエル・ホーソーン『大理石の牧神』(*The Marble Faun*, 1860)は、アメリカで早い頃のインターナショナル小説とも言える作品であるが、作品中にはイタリア文化、ユダヤ文化、アメリカ文化という多文化が複雑に絡み合っかいま見られる。これについても上記(1)(2)を考察する上で視野に入れる。

(研究の実施方法等)

1. 資料の収集

①文献資料(書籍、新聞雑誌、パンフレット)、②映像資料(ビデオ、DVD)、③地図、④Web資料

2. 作品、批評書、その他参考文献・資料の精読

3. ローマ、フィレンツェおよびアフリカ(ケニア)視察  
(2007年2月19日～2月28日)

4. 論文執筆

(順不同)

(得られた成果等)

得られた成果としては、論文原稿が、日本ソール・ベロー協会編『ソール・ベロー研究——人間像と生き方の探求』(大阪教育図書、2007年)の第5章「アフリカはどこに存するのか:『雨の王ヘンダソン』試論」として活字になったことである。この本は、ベロー研究者および一般読者の双方を対象に編まれたもので、日本においては数少ないベロー研究書の最新の1冊となった。